

(13) キャリア教育研究会

会 長 山本 博一 (中村西中)
副会長 岸本 教恵 (東山小)
事務局 長山 直史 (西土佐小)

1. 研究主題 「キャリア教育の充実を図る」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会 場	備 考
8月19日(水)	四万十市教育研究会(教科外・領域)夏季研修会 ・研修① 講話(宮川昌美さん:四万十市商工観光課) ～社会で求められている人材について～ ・研修② 講話(岡田英祐指導主事:西部教育事務所) ～キャリアパスポート・キャリア教育年間計画等について～	中村西中学校	19名参加

3. 四万十市教育研究会(教科外・領域)夏季研修会(8月19日 13:30~16:45)

(1) 講話「社会で求められている人材について」 四万十市商工観光課 宮川昌美さん

- | |
|---|
| 1、外から見た日本
2、今、社会で求められる人材とは
3、コミュニケーションスキル |
|---|

上記の3つに焦点を当て、ANAでの勤務経験やANAでの社員教育などの内容を元に講演をしていただいた。

「若い世代の特徴」として、コミュニケーションが苦手、助け合いの成功体験が少ない、相手のことを考えて行動できない、課題のある現状から逃げる傾向があるなどが挙げられた。現場に立つ教員に聞いても、最近の児童・生徒と接していて気になること、弱さを感じる部分と同じであるという意見であった。

『社会人基礎力』として、「前に踏み出す力(アクション)」や「考え抜く力(シンキング)」、中でも「チームで働く力(チームワーク)」がとても求められており、『人生100年時代の社会人基礎力』として、上記の3つに加え、能力を発揮するにあたって、自己を認識して振り返りながら「どう活躍するか(目的)」「何を学ぶか(学び)」「どのように学ぶか(統合)」のバランスを図ることが大切になるということだった。

コミュニケーション力は、言語力、以上に人間力として大切であるとのことだった。そのコミュニケーションの基本として、①聞き上手になること②リフレクティング(俗に言うオウム返し)をすること③ペーシング(話すペースなどを相手に合わせる)をすること④共感すること⑤受容することの5点が大切として挙げられた。

また、人前で話すことに慣れるためには、相手をよく見ることや身振り手振り、声の大きさや間合いを合わせることも、実際に話すことを、通して教えてもらうことができた。

